

三回書いてみましょう。送り仮名を意識して読みを（ ）に書きましょう。

詣	洞	庶	侶	僧	廷	慨	稽	躍	軒	房	霜	蛩	紫	鎌	随
もうーでる	ほらドウ	シヨ	リヨ	ソウ	テイ	ガイ	ケイ	ヤクおどーる	のケン	ふきボウ	しも	ほたるケイ	むらさきシ	かま	ズイ
詣	洞	庶	侶	僧	廷	慨	稽	躍	軒	房	霜	蛩	紫	鎌	随
詣	洞	庶	侶	僧	廷	慨	稽	躍	軒	房	霜	蛩	紫	鎌	随
、	、	、	ノ	ノ	、	、	、	、	一	一	一	、	、	ノ	、
⑩ 神社に詣でる（もうーでる）	⑮ 洞察力がある（どうさつ）	⑭ 庶民の暮らし（しょみん）	⑬ 僧侶に相談する（そうりよ）	⑫ 寺の小僧さん（こぞう）	⑪ 宮廷での生活（きゆうてい）	⑩ 感慨深い気持ち（かんがい）	⑨ 滑稽な失敗談（こっけい）	⑧ 歌人として活躍する（かつやく）	⑦ 土産物屋が軒を並べる（のき）	⑥ 平安時代の女房（にようぼう）	⑤ 霜柱が立つ（しもばしら）	④ 蛩祭りに行く（ほたる）	③ 薄紫色のすみれの花（むらさき）	② 鎌倉時代（かまくら）	① 随筆を書く（ずいひつ）

枕草子・徒然草

教科書に登場する漢字の読み

送り仮名を意識して読みを（ ）に書きましよう。

① 物語を 創作 する	(そうさく)	①7 和歌を 詠 む	(よむ)
② 個性 的なものの見方	(こせい)	①8 写真 素材 を集める	(そざい)
③ 異 なる方法を試す	(こと)	①9 古都の 情趣 を味わう	(じょうしゆ)
④ 魅力が 備 わる	(そなわる)	②0 鋭 い感性	(するどい)
⑤ 清少納言	(せいしょうなごん)	②1 窓ガラスに 露 がつく	(つゆ)
⑥ 枕草子	(まくらのそうし)	②2 意志を 貫 く	(つらぬく)
⑦ 兼好法師	(けんこうほうし)	②3 外の空気に 触 れる	(ふれる)
⑧ 徒然草	(つれづれぐさ)	②4 作品を 批評 する	(ひひょう)
⑨ 雨が 降 る	(ふる)	②5 議事録を書き 留 める	(とめる)
⑩ 天皇 陛下	(てんのう)	②6 筆を 執 る	(とる)
⑪ 皇后 陛下	(こうごう)	②7 名案が 浮 かぶ	(うかぶ)
⑫ 教養 を養う	(きょうよう)	②8 星が 輝 く	(かがやく)
⑬ 日常を 回 想して書く	(かいそう)	②9 晴れの 舞台 をつとめる	(ぶたい)
⑭ 闇夜 に明かりを灯す	(やみよ)	③0 多様な 階層 の人たち	(かいそう)
⑮ 色とりどりの 色彩	(しきさい)	③1 落ち着いた 態度	(たいど)
⑯ 巧み な表現	(たくみ)	③2 初日の出を 拝 む	(おがむ)

枕草子・徒然草

教科書に登場する漢字の書き

送り仮名を正しく書き、漢字に直しましょう。

① ずいひつ <small>を書く</small>	(随筆)	①⑦ 物語をそうさくする	(創作)
② かまくら <small>時代</small>	(鎌倉)	①⑧ こせい <small>的なもの見方</small>	(個性)
③ 薄むらさき <small>色のすみれの花</small>	(紫)	①⑨ こと <small>なる方法を試す</small>	(異)
④ ほたる <small>祭りに行く</small>	(蛍)	②⑩ 魅力がそなわる	(備わる)
⑤ しもばしらが立つ	(霜柱)	②⑪ せいしようなごん <small>(清少納言)</small>	(枕草子)
⑥ 平安時代のようぼう	(女房)	②⑫ まくらのそうし	(枕草子)
⑦ 土産物屋がのきを並べる	(軒)	②⑬ けんこうほうし <small>(兼好法師)</small>	(徒然草)
⑧ 歌人としてかつやくする	(活躍)	②⑭ つれづれぐさ	(徒然草)
⑨ こっけい <small>な失敗談</small>	(滑稽・滑稽)	②⑮ 雨がふる	(降る)
⑩ かんがい <small>深い気持ち</small>	(感慨)	②⑯ てんのう <small>陛下</small>	(天皇)
⑪ きゆうていで <small>での生活</small>	(宮廷)	②⑰ こうごう <small>陛下</small>	(皇后)
⑫ 寺のこぞう <small>さん</small>	(小僧)	②⑱ きようよう <small>を養う</small>	(教養)
⑬ そうりように <small>相談する</small>	(僧侶)	②⑲ 日常を <small>かいそうして書く</small>	(回想)
⑭ しょみん <small>の暮らし</small>	(庶民)	③⑰ やみよに <small>明かりを灯す</small>	(闇夜)
⑮ どうさつ <small>力がある</small>	(洞察)	③⑱ 色とりどりの <small>しきさい</small>	(色彩)
⑯ 神社にもう <small>でる</small>	(詣でる)	③⑲ たくみ <small>な表現</small>	(巧み)

枕草子・徒然草

教科書に登場する漢字の書き

① 和歌をよむ	(詠む)	<input type="checkbox"/> ずいじ <small>更新する</small>	(随時)
② 写真そごい <small>を集める</small>	(素材)	<input type="checkbox"/> 草をかまで刈る	(鎌)
③ 古都のじょうしゆを味わう	(情趣)	<input type="checkbox"/> しがいせん <small>対策</small>	(紫外線)
④ するどい <small>感性</small>	(鋭い)	<input type="checkbox"/> けいこうとうをつける	(蛍光灯)
⑤ 窓ガラスにつゆがつく	(露)	<input type="checkbox"/> れいぼうのきいた室	(冷房)
⑥ 意志をつらぬく	(貫く)	<input type="checkbox"/> ひとふさこのぶどう	(一房)
⑦ 外の空気にふれる	(触れる)	<input type="checkbox"/> すうけんの店が並ぶ	(数軒)
⑧ 作品をひひようする	(批評)	<input type="checkbox"/> 胸がおどる	(躍る)
⑨ 議事録を書きとめる	(留める)	<input type="checkbox"/> ダンスをおどる	(踊る)
⑩ 筆をとる	(執る)	<input type="checkbox"/> クマが冬眠する	(洞穴)
⑪ 名案がうかぶ	(浮かぶ)		
⑫ 星がかがやく	(輝く)		
⑬ 晴れのふたいをつとめる	(舞台)		
⑭ 多様なかいそうの人たち	(階層)		
⑮ 落ち着いたたいど	(態度)		
⑯ 初日の出をおがむ	(拝む)		

送り仮名を正しく書き、漢字に直しましょう。